

2012年8月

NO.413

## 金星食

今年は、5月21日の部分日食（太平洋側では金環日食）、6月6日の金星の太陽面通過など大きな話題になったもののほかに、もうひとつ注目を集める天文現象があります。

8月14日の夜明け前の東の空で、明けの明星の金星が新月まぢかの三日月にかくされる「金星食」が見られます。

午前2時42分に金星が月の光っている部分にかくされて、およそ50分後の午前3時32分に光っていない部分からあらわれます。

見られる方向は始めが東北東、高さは $10^\circ$ ほど。終わりは真東から $10^\circ$ 北寄り、高さは $20^\circ$ ほどです。

金星は明けの明星として、マイナス4.5等星でひととき明るくかがやいていますので、三日月に隠れていく時や、光っていない部分から現れる時のようすを双眼鏡や望遠鏡だけでなく、肉眼でも見ることができます。

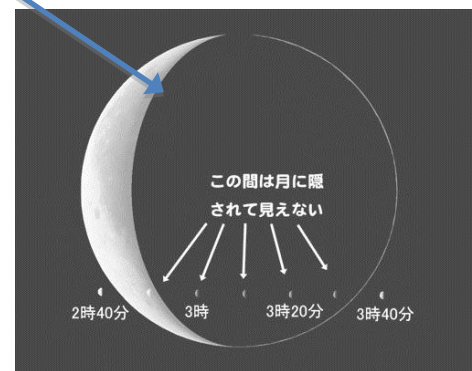
立山連峰の上空に、三日月と明けの明星がならんで光っているようすは、とてもきれいではないでしょうか。ぜひ、早起きして見てください。

また、どちらも明るい天体ですので、撮影もそんなにむずかしくはありません。カメラを三脚などにしっかりと固定し、夜景を撮影する時と同じように撮影すればいいですから、一度ためしてみるのもよいと思います。

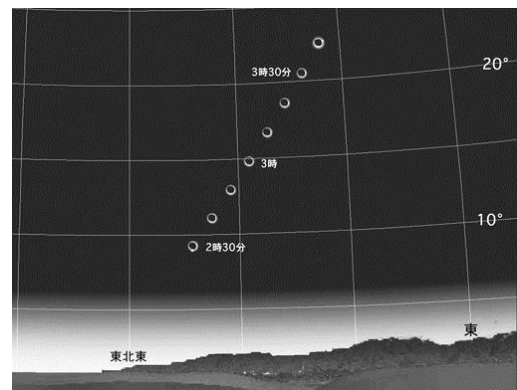
次に同じような条件で見るためには、51年後の2063年5月31日まで待たねばなりません。

(布村克志)

月



時刻ごとの金星の移動



月と金星の見える方向